

第6回国立市健康危機管理対策本部会議記録

日時	令和2年8月25日（火）午後3時00分から午後3時40分
場所	市議会委員会室
出席者	永見市長、竹内副市長、是松教育長、宮崎政策経営部長、藤崎行政管理部長、大川健康福祉部長、松葉子ども家庭部長、黒澤生活環境部長、門倉都市整備部長、江村都市整備部参事、矢吹会計管理者、橋本教育次長、雨宮生涯学習・文化・スポーツ推進担当部長、内藤議会事務局長、佐伯オンブズマン事務局長、玉江選挙管理委員会事務局長、田代監査委員事務局長 立川消防署：加藤予防課長、深沢国立出張所長
付議事項	1 市の新型コロナウイルス感染症患者状況について 2 市の新型コロナウイルス感染症対策について 3 情報共有 4 本部長指示及び対応方針について 5 その他
主な内容 (進行：大川健康福祉部長) 1 本部長あいさつ（永見市長） 国立市における新型コロナウイルスの感染者は、8月に入り大きく増加しているが、市内におけるクラスターの発生はなく、重症の方や死亡した方もいないため、ある程度感染がコントロールされている状況であると考えられる。最近、各市の職員が感染している例が多数あるため、国立市でも緊張感をもって対応する必要がある。	
2 議 題 (1) 市の新型コロナウイルス感染症患者状況について（事務局：橋本健康づくり担当課長） 国立市における4月～7月までの累計患者数は14名であった。8月1日～24日までの患者数は11名で、このうち9人は20～30代である。よって、4月～8月24日の累計患者数は25名となる。また、このうち7名が入院・療養中であり、18名が退院等されている状況である。	

【国立市医師会 春日井会長のコメント】（事務局：加藤健康増進課長補佐）

本日欠席の春日井会長より、コメントを預かっているのでご紹介する。

26市の2週間ごとの人口10万対の感染状況を見ると、国立市についてはコントロール下にあると感じる。しかし、府中、国分寺、立川など近隣市の増があるので、流入による増は時間差があるのみで、今後同様な患者増が起こる可能性はある。引き続き注意が必要。

東京都の資料はそのとおり受け取るが、世代間の集まりを注意する必要があると感じる。また、買い物等の外出時間、外出先での滞在時間を短くすることがよいと思う。基本的にはやはり手洗い、うがいが大切。診療場面でも、手洗い、うがいを何よりも注意喚起している。

※資料…東京都 感染状況・医療提供体制の分析（8月19日時点）

東京都対策本部報 患者の発生状況（新規）・区市町村別累計患者数

26市別人口10万人に対する新規陽性者数推移の累計（2週間ごと）

（2）市の新型コロナウイルス感染症対策について（事務局：橋本健康づくり担当課長、加藤健康増進課長補佐）

①クラスター対策について

厚生労働省事務連絡をもとに情報共有

②自宅待機者の増加に向けての対応

新型コロナウイルス感染症の自宅待機者への支援（食料品や日用品）について情報共有

③国立市新型インフルエンザ等対策業務継続計画（BCP）について

各課アンケートの集計結果をもとにBCPを修正していく旨を情報共有

（3）情報共有（立川消防署 加藤予防課長）

立川消防署配置の救急隊5隊について、8月1日～23日における国立市内での活動状況を報告する。救急出動件数は167件、そのうち東京ルール適用事案はなかった。

【まとめ】

当市の状況として、感染症患者は増えているものの、特別区や他の25市に比べてクラスターの発生もなく、なんとか持ちこたえているといえる。

予断を許さない状況だが、過剰な不安を煽ることなく、これまでの基本方針を継続し、引き続き市民に対して3密を避ける、手洗いを励行するといった基本的な感染予防をお願いしていく。また、感染症の状況を見ながら、当面現在の活動や業務を維持・継続していく。

対策本部としても、市民の意見や政策提言などを集約して、市民に返していくことが大切である。

(4) 本部長指示及び対応方針について

市民への感染予防の呼びかけを徹底していくことが必要。特に無症状の若い世代が高齢者やしょうがいしゃ、基礎疾患を持つ方に感染が広がらないように注意していかなければならない。このことについても市民へ呼びかけをしていく。

(5) その他

モニタリングも兼ねて月に1回程度、本部会議を開催することを検討している。運営部会については、随時事務局から招集させていただき、細かな情報を集約していきたい。

以上